

令和8年度花き研究シンポジウム
「消費・流通・生産を結ぶ新時代の花き品種開発戦略」

1. 趣旨

地球温暖化による気候変動の影響に加えてグローバルにつながった世界は不安定な状況にあり「不確実性の時代」の真ただ中にある。こうした社会情勢において国内花き生産を取り巻く情勢も厳しい状況にある。このような状況のなか、環境、社会情勢の変化への対応策の一つとして、気候変動等に起因する高温障害や病害虫等による品質や収量の低下の課題に対応し、安定生産に貢献する優良品種、また、新規性等による高付加価値化に貢献する優良品種の育成・導入への期待が大きい。花きの優良品種の開発は、我が国花き生産の源泉であり、この優良品種を活用し、国内花き生産・需要の振興ばかりでなく、切り花（輸出重点品目）の輸出促進、さらには、戦略的な海外ライセンスといったグローバル展開により、我が国の花き産業に携わる者のさらなる収益増大につながることを期待される。

今回のシンポジウムでは、消費、流通の視点から国産花きへのニーズの現状、国内外における品種開発および種苗マーケットの現状を共有するとともに、今後の日本の花き業界全体の発展につながる花きの品種、技術開発について、民間、大学、公設試、国研等の連携による品種開発の事例を基に、戦略的な品種開発および技術開発の方向性を“連携”をキーワードに探る。

2. 主催

農研機構 野菜花き研究部門

3. 開催日時

令和8年10月6日（火）13:00～10月7日（水）12:00
（受付：10月6日（火）12:15～）

4. 開催場所

文部科学省 研究交流センター2階 国際会議場
（茨城県つくば市竹園2-20-5）

5. プログラム

別紙のとおり

6. 参加費

無料

7. 参集範囲

国公立試験研究機関担当者、都道府県専門技術員・普及指導員等、大学・民間団体・企業等の研究者、花き産業関係者、その他農研機構野菜花き研究部門所長が必要と認める者

8. 事務局および連絡先

農研機構 野菜花き研究部門 研究推進部研究推進室
電子メール：sh-kakirenkei@naro.go.jp

(別紙)

令和8年度花き研究シンポジウムプログラム

1日目(10月6日(火))

司会：農研機構野菜花き研究部門 久松 完

13:00～13:05 開会挨拶

農研機構野菜花き研究部門 所長 東出 忠桐

13:05～13:10 はじめに

基調講演

13:10～14:00 「市場からみた花き産業の現状と種苗開発への期待」

株式会社大田花き 萩原 正臣

世界と日本の花き種苗マーケット

14:00～14:45 「消費・流通のパラダイムシフト。サマーフラワーが変える世界の切り花トレンド」

株式会社ミヨシグループ 三好 正一

14:45～15:30 「花き育種のグローバル競争と日本の戦略 ― キク・バラ・カーネーションにおける次世代種苗開発」

イノチオ精興園株式会社 石黒 康平

(休憩 10分)

15:40～16:25 「遺伝子組換え花きのこれまでと現在地」

サントリーフラワーズ株式会社 中谷 暢克

16:25～16:50 討論 日本の花き品種開発戦略(棲み分け・競争と産官学の連携促進)

2日目(10月7日(水))

司会：農研機構野菜花き研究部門 野田 尚信

種苗開発における連携事例

9:00～9:45 「農研機構における先導的品種開発とその効果」

農研機構野菜花き研究部門 八木 雅史

9:45～10:20 「沖縄県農業研究センターと民間育種会社による共同育種の取り組み ― 沖縄県に
適応したキク品種の育成を目指して」

沖縄県農業研究センター 田場 奏美

(休憩 10分)

10:30～11:05 「官学連携によるアジサイ DNA マーカーの開発と栃木県オリジナル品種開発への
利用」

栃木県農業総合研究センター 沼尾 貴延

11:05～11:45 「花卉老化機構の理解から産官学連携による育種・品質保持技術開発への展開」

農研機構野菜花き研究部門 渋谷 健市

11:45～11:55 討論

11:55～12:00 閉会挨拶

農研機構野菜花き研究部門 育種・生理基盤研究領域長 久松 完